

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(海岸)

令和7年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価1年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	気候変動影響下での長期汀線変化を予測する半経験的モデルの開発	東京大学 下園 武範	a	過去データに基づくデータ駆動型アプローチにより、精度の高い結果を得ている。気候変動の影響を含む条件変化が長期変動予測に与える影響を明示できるように取り組まれることを期待する。今後、洪水時における河川からの土砂流出量の影響も含めた研究の展開が望ましい。
概要	本研究では、深淺測量データが蓄積された海岸を対象に、気候変動下での長期的な汀線変動を予測するためのモデル構成手法を構築する。過去の地形・海象データを用いて、質量保存則を満たす土砂輸送特性を帰納的に推定する方法を構築し、半経験的汀線変化モデルを構成する枠組みを示す。さらに、現地観測と衛星画像解析により、短期変動の影響評価および手法の妥当性検証を行う。			
テーマ	等深線変化モデルにBruun 則と平衡断面の概念に基づいた岸沖漂砂を組み込むことによる平均海面水位の上昇や波浪変化を考慮した海浜地形予測手法の開発	株式会社 建設技術研究所 中園 大介	b	一定の進捗は見られるが、リクワイアメント達成のためには、様々な事項を検証する必要がある。時間発展を考慮できないBruun則に基づいて気候変動の影響を表現できる論理性を明確にしつつ、例えば、気候変動による海面上昇だけではなく、波浪などの外力増加も考慮できる手法を構築するなどが考えられる。
概要	本研究開発では、等深線変化モデルにBruun則と平衡断面の概念に基づいた岸沖漂砂を組み込むことで、海面上昇に伴う地形変化を予測可能なモデルを構築した。また、様々な計算ケースによる感度分析結果を踏まえて計算条件を一般化した。1年目では、地盤沈下によって疑似的な海面上昇が生じている新潟港海岸を対象に再現計算を実施し、現地の条件でもBruun則による後退量を再現することができることを確認した。			

(氏名五十音順, 敬称略)

評価の凡例

- a: 研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
- b: コメントに留意の上、引き続き研究を推進する。(コメントあり)
- c: 現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難であるため、研究を終了する。(コメントあり)